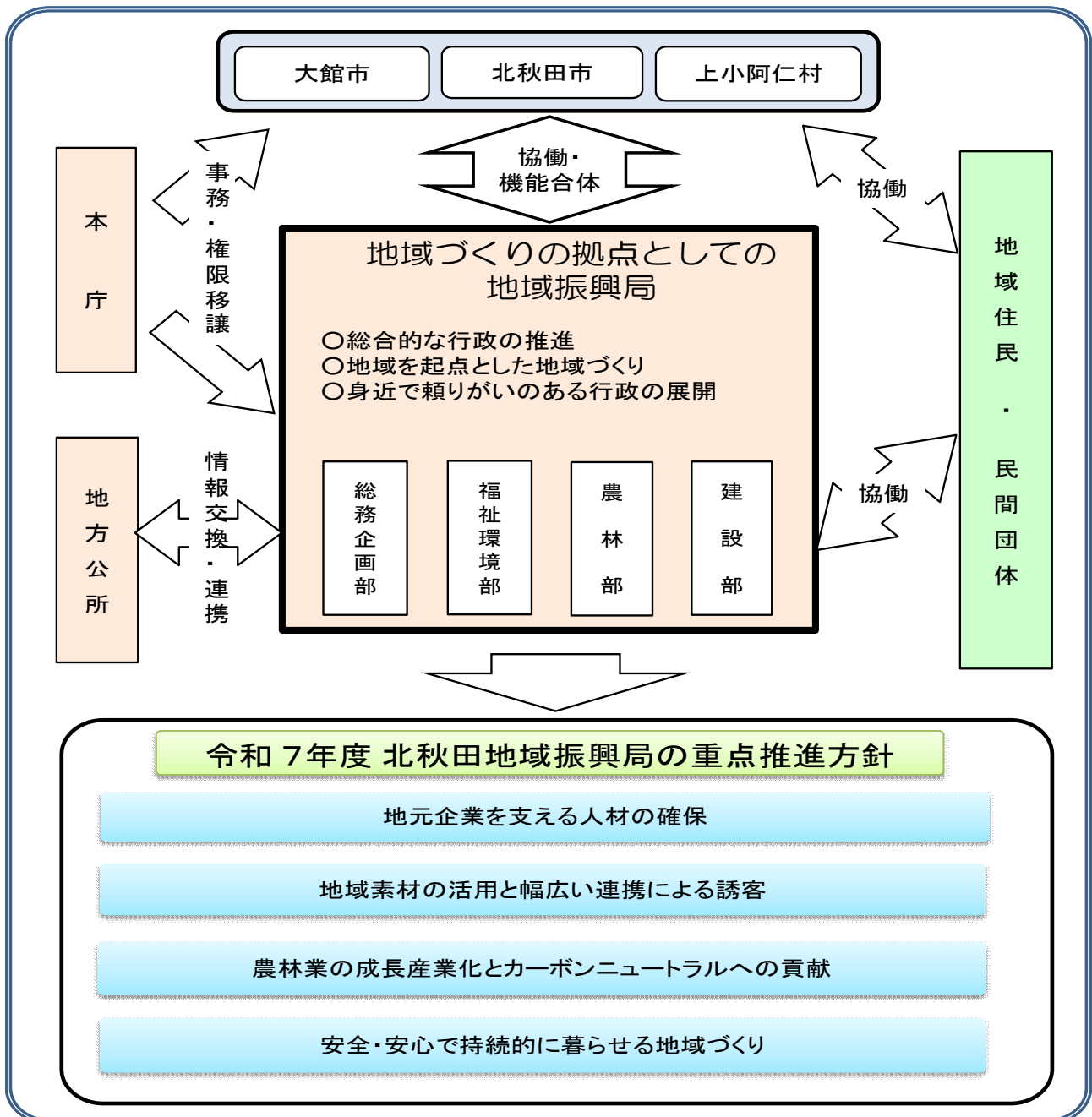


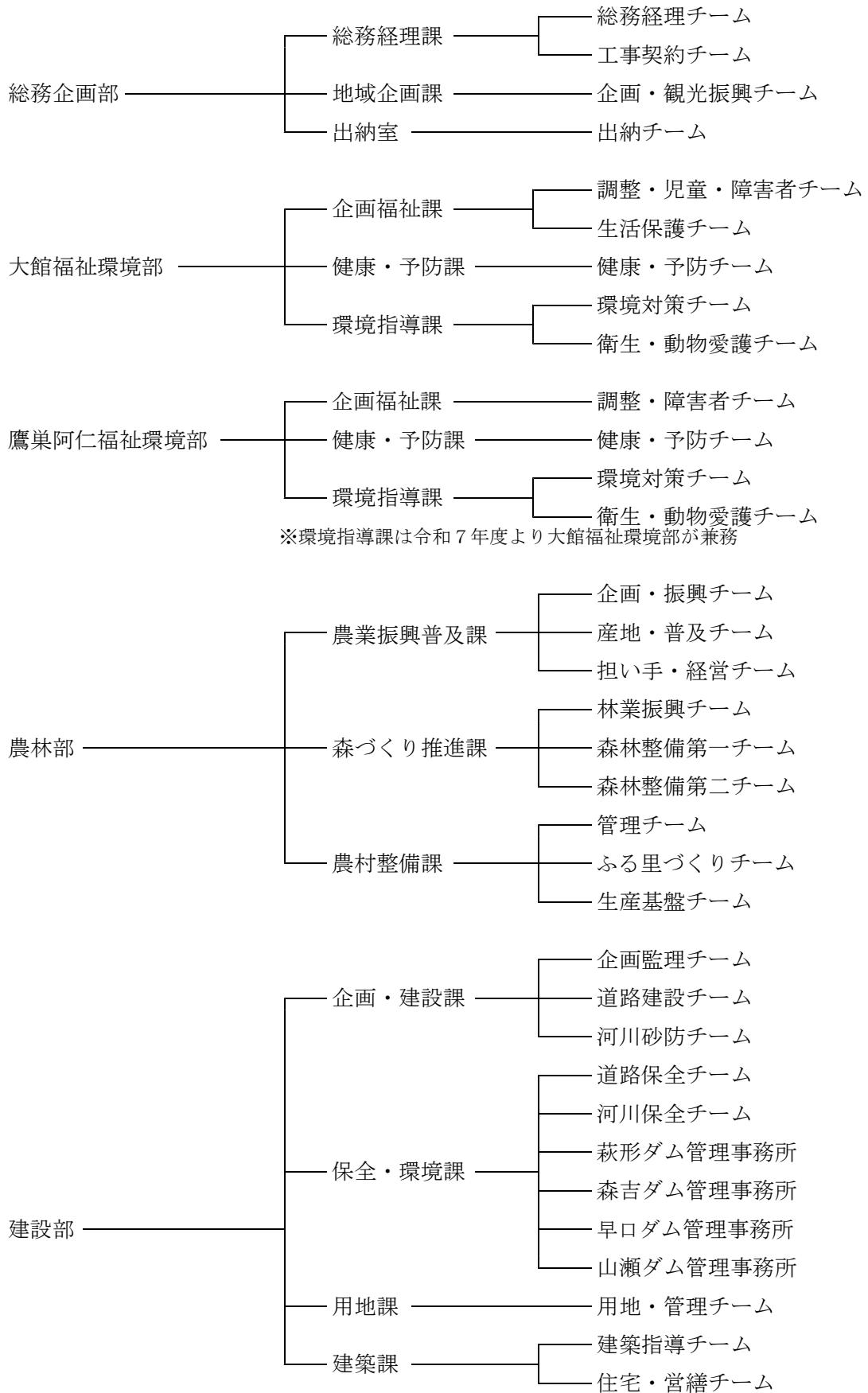
I はじめに

北秋田地域振興局では、「新秋田元気創造プラン」の着実な展開を図るため、重点施策推進方針を策定し、これに基づく施策・事業を推進することにより、一層活力ある魅力的な地域づくりを進めている。

振興局の組織は、総務企画部、福祉環境部、農林部及び建設部からなり、職員総数は会計年度任用職員を含め、245人（R7.4.1現在）となっている。また、地域における総合的な行政を推進する観点から、地域振興局に属していない地方公所等とも密接な情報交換等により連携を図っている。



II 組織体制



〔地方公所 等〕

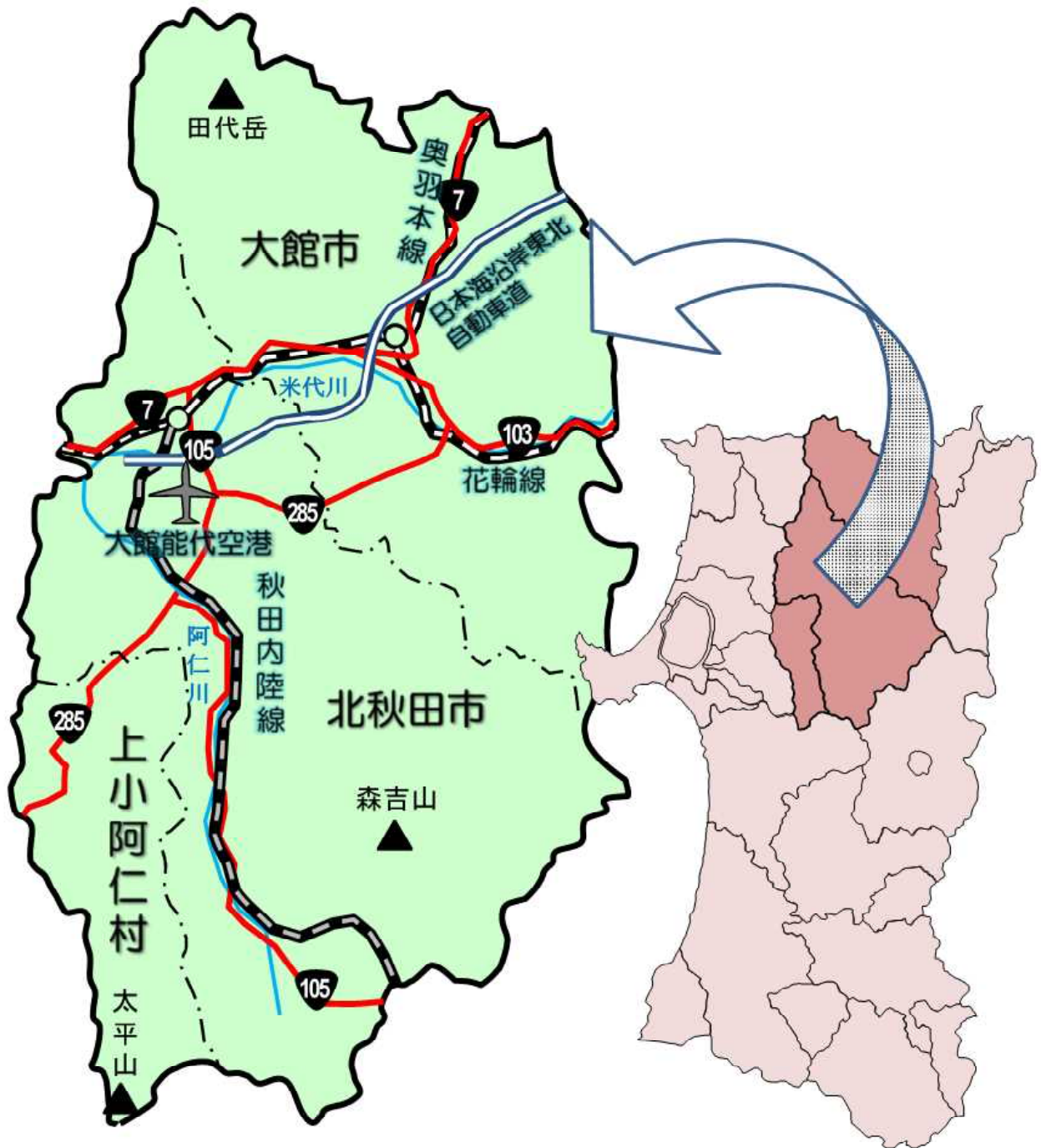
- 総合県税事務所北秋田支所
- 交通政策課秋田内陸線支援チーム（※現地設置チーム）
- 北児童相談所
- 動物愛護センター県北支所
- 北部家畜保健衛生所
- 鷹巣技術専門校
- 大館発電事務所
- 大館能代空港管理事務所
- 北教育事務所

Ⅲ 職員数

(R7. 4. 1現在)

	定 数 内 職 員			定 数 外 職 員				合 計
	正 職 員	専 門 員 技 能 員 (フル)	小 計	専 門 員 技 能 員 (短時間)	非 常 勤 (会計)	非 常 勤 (特別職)	小 計	
地 域 振 興 局 長	1		1					1
総 務 企 画 部	29	0	29	2	9	0	11	40
大 館 福 祉 環 境 部	27	1	28	1	16	2	19	47
鷹 巣 阿 仁 福 祉 環 境 部	10	0	10	0	7	0	7	17
農 林 部	47	2	49	1	7	0	8	57
建 設 部	65	3	68	0	15	0	15	83
合 計	179	6	185	4	54	2	60	245

IV 管内略図

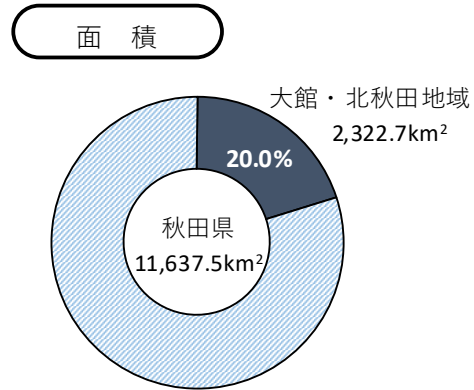


V 管内概況

1 地勢

大館・北秋田地域は、県の内陸北部に位置する2市1村（大館市、北秋田市、上小阿仁村）からなり、総面積は2,322.7km²と県全土の約20.0%を占めている。

地形は、中央部を東西に貫流する米代川（管内85.4km）とその支流沿いに平地がひらけ、大館・鷹巣盆地と阿仁部に大別される。地域全体としては山地が多く、北部には白神山地に続く田代岳、中央には森吉山、南部には太平山の3つの県立自然公園を有している。



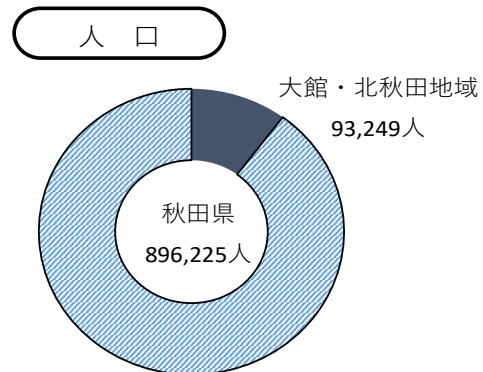
（出典 令和6年版秋田県勢要覧）

2 人口

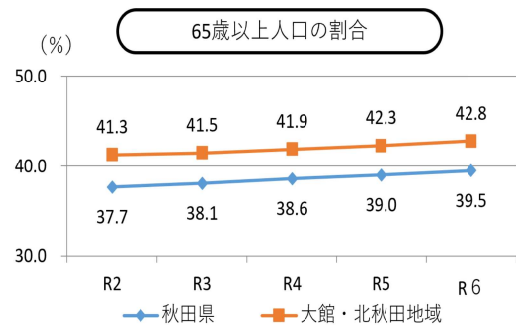
管内の人口は、昭和35年の176,653人（国勢調査）をピークに減少を続け、令和6年10月1日現在で93,249人（県全体の10.4%）となっている。

また、管内の65歳以上人口の割合は42.8%で、県平均の39.5%を3.3ポイント上回っており、県の中でも高齢化が進行している。

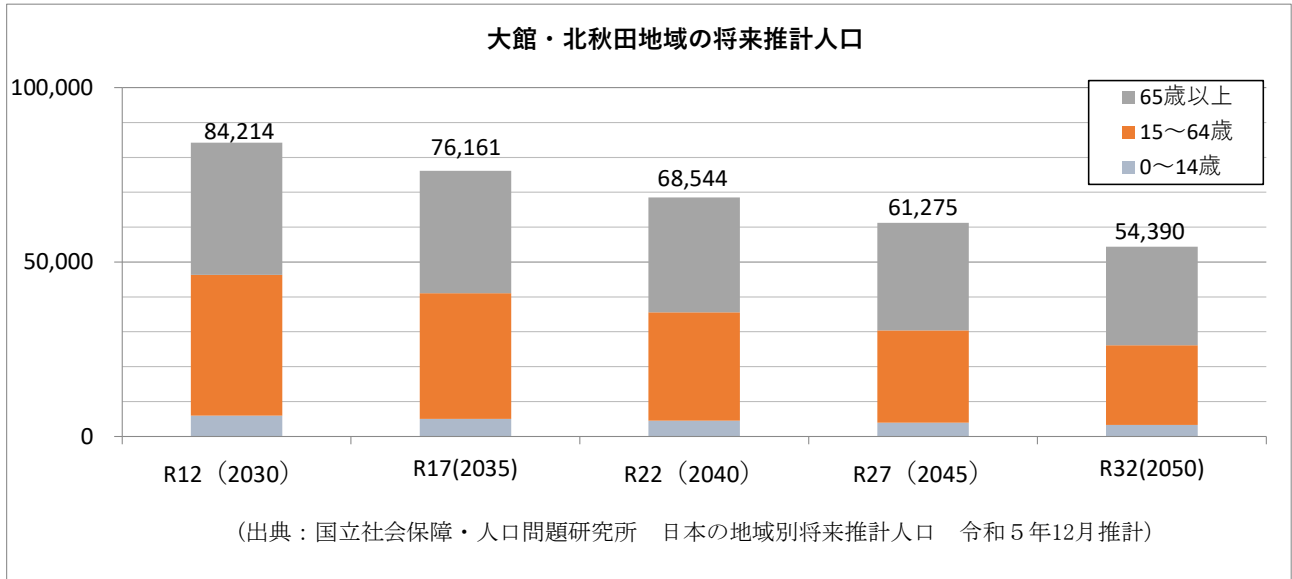
国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（令和5年12月発表）では、管内の人口はそのまま減少を続け、令和32年には54,390人にまで減少するとされている。また、この間、年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳から64歳）の割合は減少する一方、老年人口（65歳以上）の割合は増加し、令和32年には管内の人口の約52.0%を占める見込みとなっている。



（出典 令和6年 秋田県の人口
—秋田県年齢別人口流動調査報告書—）



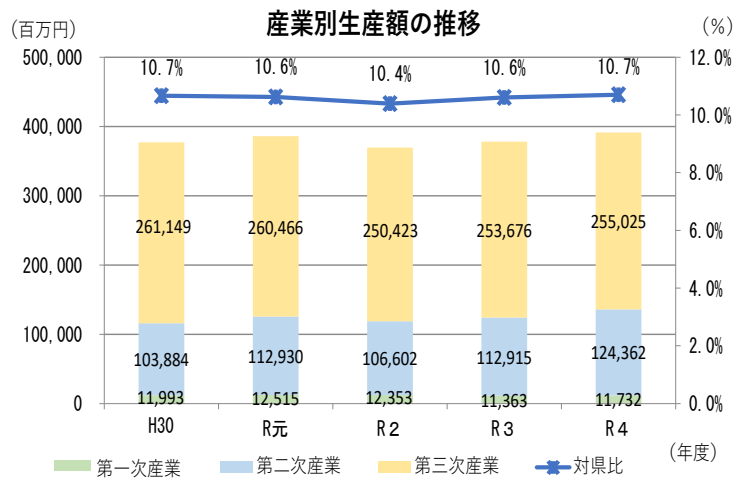
（出典 令和2年～令和6年秋田県の人口）



3 産業

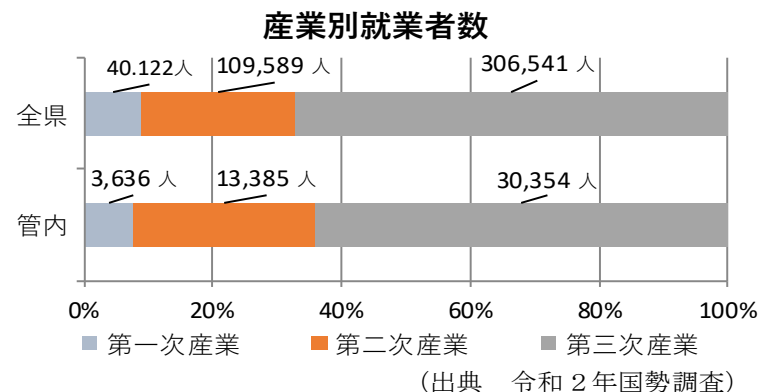
令和4年度における管内の総生産額は約3,892億円で、前年度と比べ約129億円の増加となっており、全県の総生産額（3兆6,293億円）の約10.7%を占めている。

産業別では、第一次産業が約117億円（構成比3.0%）、第二次産業が約1,243億円（同31.8%）、第三次産業が約2,550億円（同65.2%）となっており、全県と比べ、第二次産業の比率が高く、第三次産業の比率が低い産業構造となっている。



※第一次～第三次産業の値は、輸入品に課される税・関税等の控除前のもの。そのため、これらの計は管内の総生産額と一致しない。

産業別就業者数の割合は、第一次産業7.7%（全県8.8%）、第二次産業28.2%（同24.0%）、第三次産業64.1%（同67.2%）と、全県と比べ、やや第二次産業の割合が高くなっている。



(1) 農林業

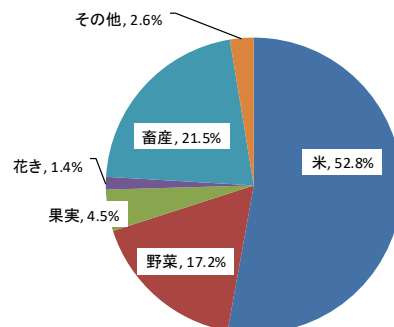
農業については、比内地鶏や山の芋、とんぶり、食用ほおずき等の特産品の産地であるほか、アスパラガス、きゅうり、ねぎなどの産地としても知られている。

さらに、近年はえだまめやにんにくの生産が急速に拡大しており、新時代を勝ち抜く攻めのトップブランド産地の形成が進んでいる。

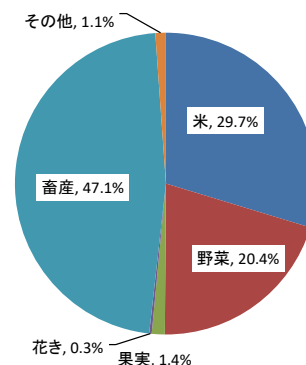
管内の耕地面積は14,165ha（うち田12,204ha、畑2,060ha）、総農家戸数は3,505戸で、うち販売農家数は2,204（62.9%）、自給的農家数は1,301（37.1%）となっている。

また、令和5年の管内の農業産出額は222.9億円で全県の約12.6%を占めており、その内訳を県平均と比べると、養豚や比内地鶏等の畜産の割合が高く、近年は野菜の割合が高くなってきている。

令和4年 秋田県農業産出額割合(%)



令和5年 北秋田管内農業産出額割合(%)



○令和5年農業産出額

単位：億円

	米	野菜	果実	花き	畜産	その他	合計
大館市	34.1	29.2	2.5	0.5	68.9	1.3	136.5
北秋田市	29.0	15.5	0.6	0.1	36.0	1.1	82.3
上小阿仁村	3.1	0.8	0	0	0.1	0.1	4.1
北秋田地域計	66.2	45.5	3.1	0.6	105.0	2.5	222.9
秋田県	938	298	81	12	402	40	1,771
北秋田／秋田県	7.1%	15.3%	3.8%	5.0%	26.1%	6.3%	12.6%

(出典 農林水産省資料 令和5年市町村別農業産出額(推計))

近年は、認定農業者や集落型農業法人等の担い手を中心とした生産構造への転換を図るとともに、機械導入によるえだまめ・にんにくの大規模産地化など、農業経営の複合化、多角化を進めている。さらに、経営基盤の強化を図るため、県外からの移住就農を含め、次代をリードする多様な人材の確保と競争力の高い担い手の育成に取り組んでいる。

農業の主要指標

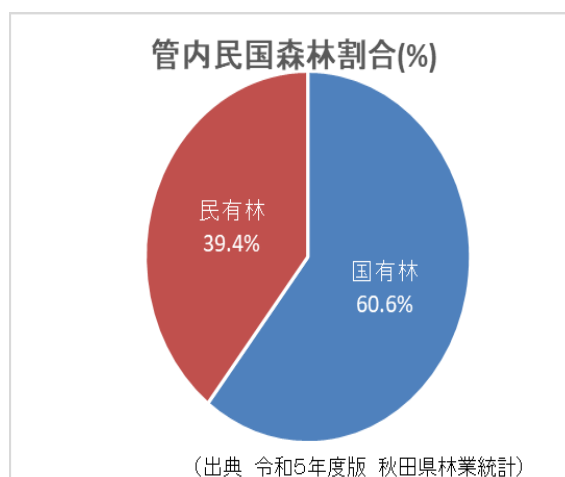
項目		項目	管内(A)	全県(B)	A/B(%)	摘要
農 家 数	総農家数	戸	3,505	37,116	9.4	2020年農林業センサス
	販売農家数	戸	2,204	27,780	7.9	
	自給的農家数	戸	1,301	9,336	13.9	
	農業従事世帯員 ^{※1}	人	3,311	42,144	7.9	
	認定農業者	戸	547	8,259	6.6	県調査 (R6.3月末現在)
	集落営農組織	組織	87	699	12.4	
	集落型農業法人	組織	37	395	9.4	
	任意組織	組織	50	304	16.4	
耕 地	耕地面積	ha	14,165	145,600	9.7	作物統計調査 (2024年)
	田	ha	12,104	127,700	9.5	
	畑	ha	2,060	17,800	11.6	

※1) 年間60日以上農業に従事した世帯員、役員・構成員（経営主を含む）

林業・木材産業については、民有林のスギ人工林資源が成熟期に入ってきていることから、スギ原木の低コスト安定生産を図るため、施業の集約化や林内路網整備の推進のほか、生産性の高い作業システムの普及・定着を進めるための高性能林業機械等の導入に取り組んでいる。

管内の森林面積は、194,584haで総面積 232,270haの83.8%を占め、そのうち国有林が117,824ha(60.6%)、民有林が76,760ha(39.4%)となっている。

また、山林を所有する林家数は4,258戸で、総世帯数の10.7%を占める。

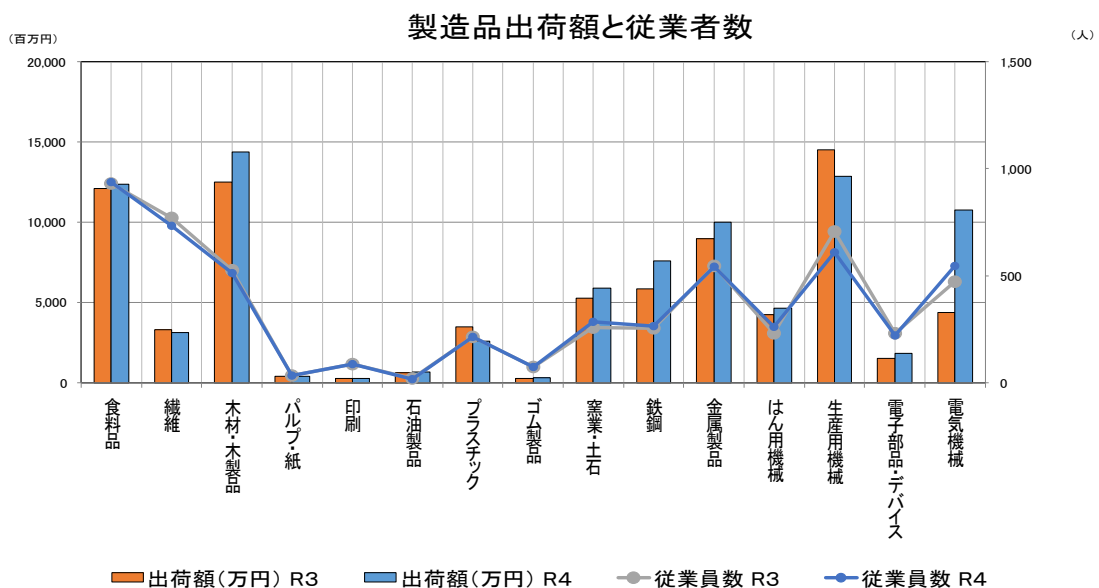


○林業の主要指標

項目		項目	管内(A)	全県(B)	A/B(%)	摘要	
森林資源	林野率	%	83.8	72.1	—	令和5年度版 秋田県林業統計	
	森林面積	千ha	195	840	23.2		
	民有林	森林面積	千ha	77	448		17.1
		人工林率	%	58.6	57.3		—
		森林蓄積	千m ³	16,054	97,755		16.4
森林生産	林内道路密度	m/ha	17.2	17.7	—		
	林道整備密度	m/ha	8.3	7.3	—		
	間伐面積	ha	383	4,599	8.3		
	原木市場売上数量	千m ³	53	123	43.5		
その他	林家数	戸	4,258	22,125	19.2		

(2) 工業

管内の製造品出荷額等は、令和4年にあつては1,833億円、従業者数は8,958人、事業所数は243となっており、製造品出荷額をみると木材・木製品が最も多く、生産用機械、食料品がそれに続いている。

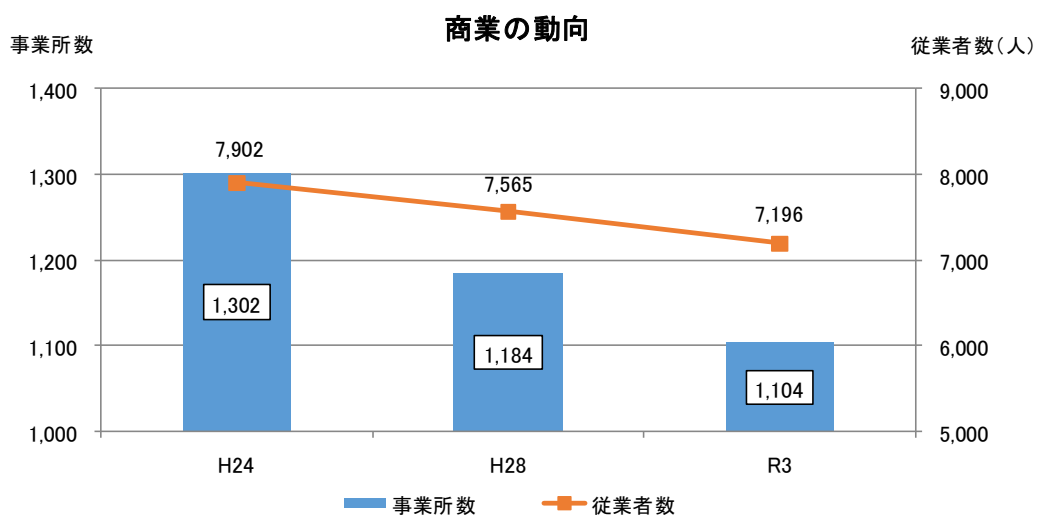


○北秋田地域の誘致企業

年度	企業名	市村	操業年月	業種
R元	第一日昭工業株式会社	大館市	R2年6月	生産用機械器具製造業
	株式会社エレックス極東 鷹巣 再生可能エネルギー研修センター	北秋田市	R元年7月	エンジニアリング業
R3	株式会社オオダテソーイング ファクトリー	大館市	R3年11月	製造業
	東洋紡株式会社	大館市	R6年6月	製造業
R5	株式会社本家あべや	大館市	R6年6月	製造業
	株式会社ぴーぷる	北秋田市	R6年4月	情報処理 (ソフトウェア業)
R6	株式会社ヤマハミュージック クラフト秋田	北秋田市	R7年10月	製造業

(3) 商業

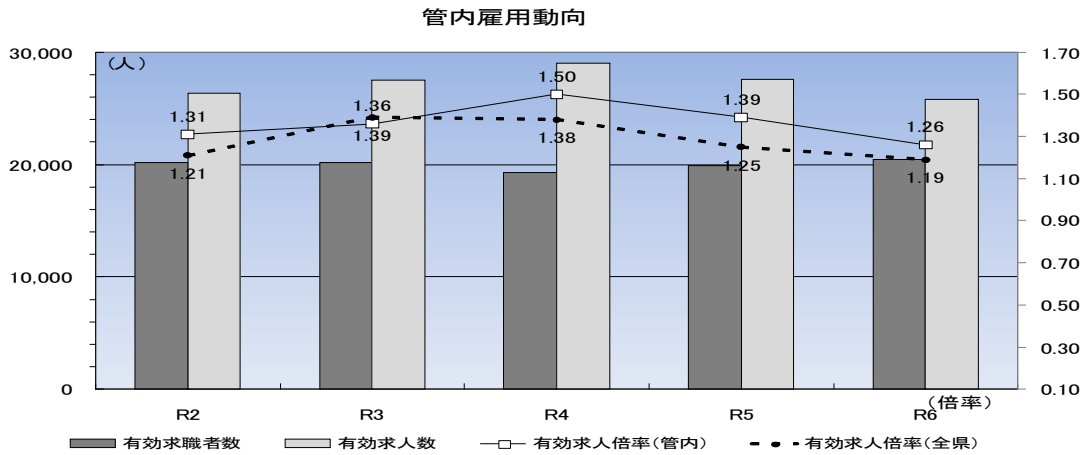
管内の卸売業・小売業は、令和3年6月実施の経済センサス活動調査で、管内1,104事業所、従業者は7,196人となっている。近年、人口減少等により、事業所数、従業者数ともに減少傾向にある。



(出典 平成24、28年、令和3年経済センサス活動調査)

4 雇用動向

管内の年間平均有効求人倍率は、令和6年にあつては1.26倍で、全県の1.19倍を上回るなど、ここ数年、全県平均以上の値で推移している。

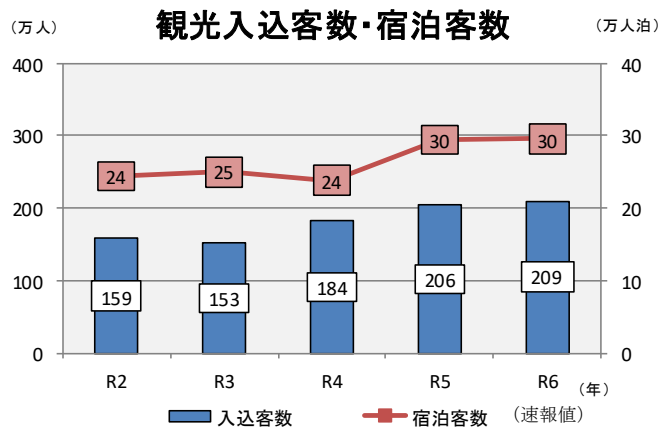


(出典 秋田労働局調べ)

5 観光

管内の入込客数は、令和6年にあつては2,091,280人で、前年比で1.7%の増加となっている。宿泊客数は295,545人で、前年比で0.17%の増加となっている。

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた、入込客数及び宿泊客数ともに増加傾向にあるものの、令和元年以前の水準までは回復していない状況にある。



(出典 秋田県観光統計、振興局調べ)

○主要観光地点及びイベント等の入込客数

名称	令和5年	令和6年
秋田犬の里	178	219
道の駅ひない	99	107
大太鼓の里 ぶっさん館	160	170
森吉山阿仁スキー場	31	37

名称	令和5年	令和6年
道の駅かみこあに	269	297
大館アメッコ市	59	83
本場大館きりたんぼまつり	77	73
比内とりの市	13	16

(出典 振興局調べ)

(参考：北秋田地域のワーケーション・サテライト オフィス一覧)

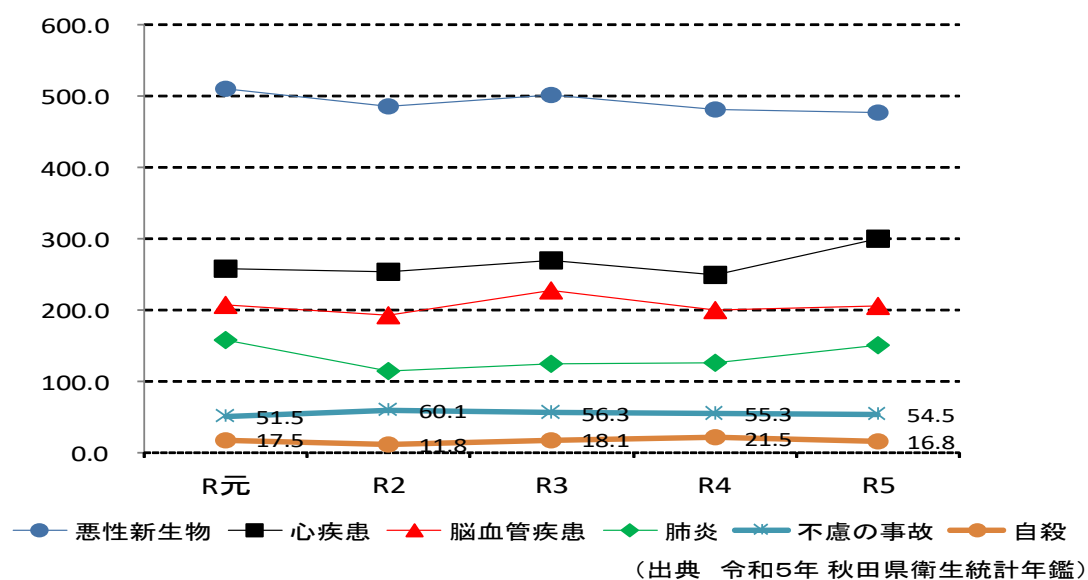
施設名	市村	特徴
五色湖ロッジ 【休止中】	大館市	湖畔にあるロッジ。岩瀬川溪流の散策や田代岳の登山が楽しめる。時期によっては、五色湖でのカヌー体験も可能。
ベニヤマ自然パーク	大館市	パーク内に宿泊可能なコテージがあり、春はお花見、夏はキャンプ、秋は紅葉を楽しむことができる。また、徒歩5分の場所に、廉価で入浴できる天然温泉施設がある。
MARUWWA (マルーワ)	大館市	大館駅前で大田犬の里からも近く、交通の便が良い。ビジネスから観光まで、さまざまな拠点として活用可能。起業創業支援や移住サポートなども行っているため、行政から民間まで多くの業種との交流がある。
MARUWWAニコメ	大館市	大館市の中心部にあるコミュニティセンター。市役所にも近い大町商店街にあり、授乳室やキッズスペースを完備。また、物販スペースやキッチンもあり、子育て相談や子どもと参加できる教室も随時開催している。
MARUWWA三角	大館市	大館市大町商店街内の車通りの多い交差点の角にあるレンタルオフィス。ライブ配信やオンライン講座などを行うことができるスタジオとして運営しているほか、レンタルキッチンやイベントなど様々な利用も可能。
東光雪沢テクノパーク	大館市	大館市と十和田湖をつなぐ県道2号(樹海ライン)沿いにある旧雪沢小学校を活用したレンタルオフィス。現在はドローン事業の拠点として、農業用・防災用ドローン等の開発・製造・教習施設として活用している。5km圏内には温泉施設があり、十和田八幡平国立公園へのアクセスも便利。
community station KITAKITA (キタキタ)	北秋田市	古い倉庫をリノベーションした小さなレンタルオフィス。オフィスは2階で、1階には施設運営の設計事務所とカフェスペース、さらに、ワークショップやセミナー、展示会等が開催可能なコミュニティスペースがある。JR鷹ノ巣駅、秋田内陸線鷹巣駅の目の前にあり、大館能代空港まで車で10分、大型スーパーに行けば高速バス乗り場があるなど交通の便も良い。
TANOC (タノック)	北秋田市	JR鷹ノ巣駅、秋田内陸線鷹巣駅から徒歩1分、大館能代空港まで車で10分のTANOCビル内にあるレンタルオフィスとコワーキングスペース。一階のカフェをはじめ飲食店やスーパー等も近い。
レンタルオフィス 鷹巣スポーツ	北秋田市	JR鷹ノ巣駅から徒歩6分。商店街の一角に立地し交通の便は良好。カラオケボックスをリノベーションした施設のため、防音性に優れている。
阿仁比立内 がっこステーション	北秋田市	秋田内陸線比立内駅舎内にある利用料無料のコワーキングスペース。オシャレなカフェのような雰囲気、フリードリンクを備えており、仕事や休憩に利用することができる。令和5年11月、同駅舎内を改装。漬物(がっこ)を作るための共同加工場が整備され、漬物作りのほか、文化の発信など、漬物文化の継承に役立てる施設が併設された。
上小阿仁村集住型宿 泊交流拠点施設 コアニティー	上小阿仁村	将来にわたり安心して暮らせる地域社会を構築することを目的に、村内外の交流活動の促進を図る施設。起業家向けレンタルオフィスやリモートワーク可能な会議室があり、自然に囲まれた中山間地域ならではの空間でゆったりとした時間の流れに身を置きながら、集中して仕事に打ち込める環境にある。

6 保健・医療・福祉

(1) 主要死因別死亡率

令和5年における管内の死亡率（人口千対）は23.0で、全県の19.2に比べ3.8高くなっている。主要死因による死亡率（人口10万対）は、悪性新生物476.8、心疾患299.7、脳血管疾患206.5の順になっている。

主要死因別死亡率の推移（人口10万対）



(2) 福祉対象者数の状況

令和7年3月31日現在の管内の介護認定者数は8,537人となっている。また、令和7年3月中の生活保護状況は941世帯、1,105人で前年同月より減少している。

(令和7年3月31日現在、単位：人、世帯)

	大館市	北秋田市	上小阿仁村	合計
介護保険要介護（要支援）認定者数	5,665	2,676	196	8,537
精神障害者数	2,410	1,034	63	3,507
身体障害者数	3,334	1,462	128	4,924
知的障害児者数	690	409	29	1,128
母子世帯数（※1）	726	223	7	956
母子世帯の子どもの数（※1）	978	329	12	1,319
父子世帯数（※1）	108	34	4	146
父子世帯の子どもの数（※1）	150	47	8	205
生活保護世帯数（※2）	631	293	17	941
被保護人員（※2）	742	343	20	1,105

※1 令和6年8月1日現在 ※2 令和7年3月中に保護を受けた世帯数及び人員

(3) 保健福祉施設の状況

令和7年4月1日現在の管内の保健福祉施設数は、養護老人ホーム2施設、特別養護老人ホーム14施設、介護老人保健施設4施設となっている。

(令和7年4月1日現在)

	大館市	北秋田市	上小阿仁村	合計
養護老人ホーム	1	1	0	2
特別養護老人ホーム	8	5	1	14
介護老人保健施設	2	2	0	4

(4) 医療施設の状況等

令和7年4月1日現在の管内の医療施設数は、病院8施設、一般診療所79施設、歯科診療所32施設となっている。

(令和7年4月1日現在)

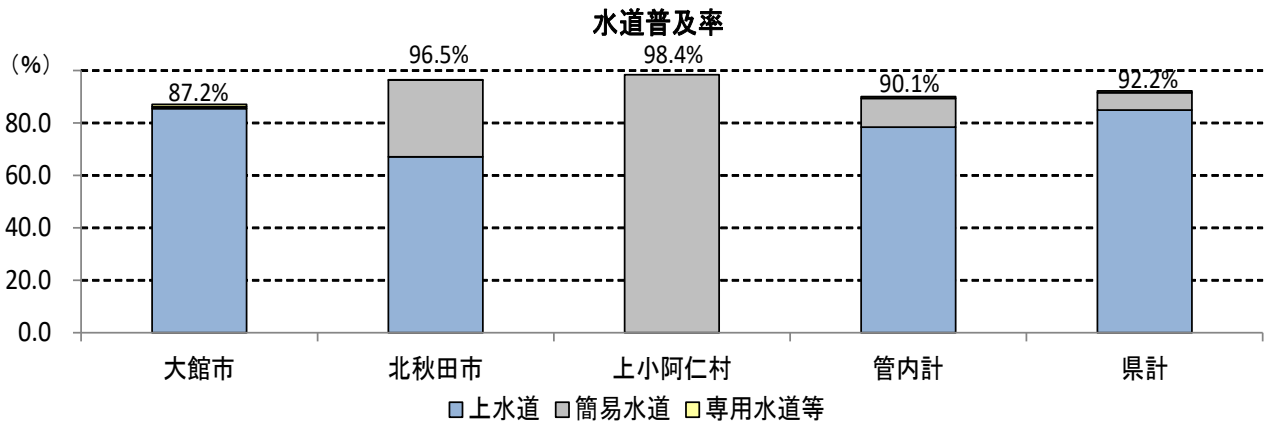
	病院		一般診療所(※)		歯科診療所
	施設数	病床数	施設数	病床数	
大館市	6	1,039	47	0	22
北秋田市	2	464	29	4	10
上小阿仁村	0	0	3	0	0
管内合計	8	1,503	79	4	32

※一般診療所の施設数は、社会福祉施設内に設置している診療所を含む。

7 生活環境

(1) 水道普及率

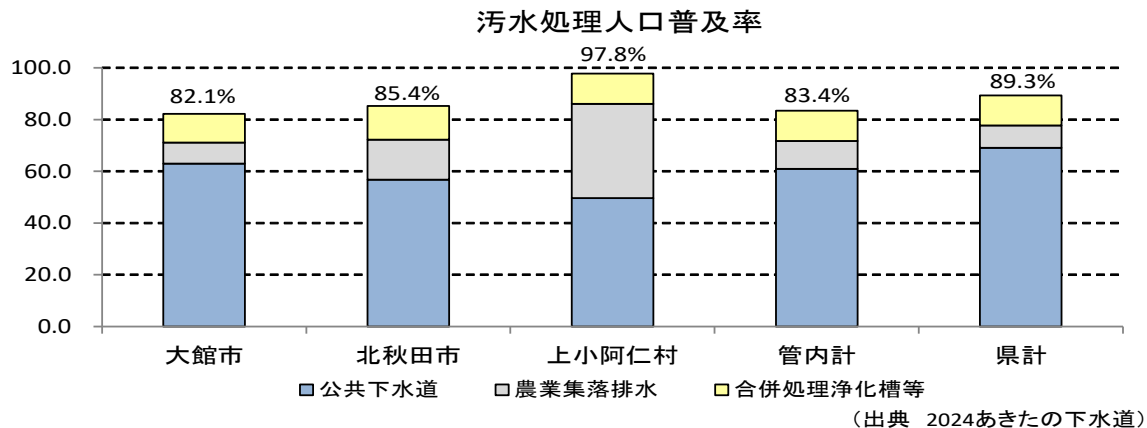
令和6年3月31日現在の管内の水道普及率は90.1%で、全県の92.2%を2.1ポイント下回っている。



(2) 汚水処理人口普及率

管内では、旧大館市、旧比内町、旧田代町が流域関連公共下水道事業、旧阿仁町、上小阿仁村が特定環境保全公共下水道事業、旧鷹巣町、旧森吉町、旧合川町が単独公共下水道事業として昭和62年度～平成10年度までに事業着手している。現在は、平成17年度の旧合川町を最後に全ての旧市町村が汚水処理を開始している。

管内の汚水処理人口普及率は、令和6年3月31日現在で83.4%と全県の89.6%を6.2ポイント下回っており、一層の整備の促進が求められている。また、流域下水道としては、米代川流域下水道事業大館処理区が昭和61年度から事業着手し、平成4年度に処理を開始しており、幹線管渠延長の整備率は100%（2条管※含む整備率86.1%）となっている。



※2条管：下水道管渠は、自然流下区間と圧送区間に分類されるが、圧送区間の管渠が損傷等で機能停止した場合に備える予備管渠を2条管という。

8 社会基盤・交通

管内の交通状況について、高速道路網では、日本海沿岸東北自動車道・二井田真中 I C～鷹巣 I C 間（平成28年10月開通）及び鷹巣 I C～大館能代空港 I C 間（平成30年3月開通）に続き、令和2年12月には大館能代空港 I C～蟹沢 I C 間が開通した。

一般道では、国管理の国道7号のほか、県管理の国道103号、国道105号、国道285号が各方面を結び、県道27路線が国道を補完してネットワークを形成しているが、未整備の区間もあるため、早期の整備が期待されている。

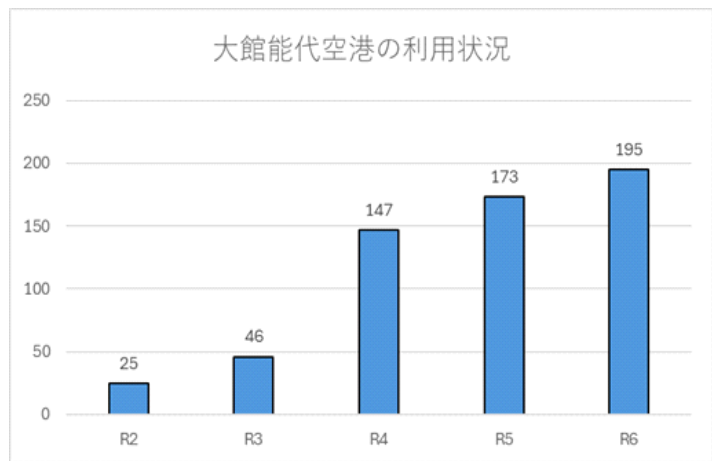
空路では、大館能代空港が平成10年に開港し、令和2年12月には利用者が300万人を突破した。同年、大館能代空港東京羽田線が、羽田発着枠政策コンテストで選定され、令和4年7月から3往復での定期運行となった。

また、令和6年12月の有識者懇談会において、大館能代空港の利用者数の伸びとこれまでの取組が評価され、

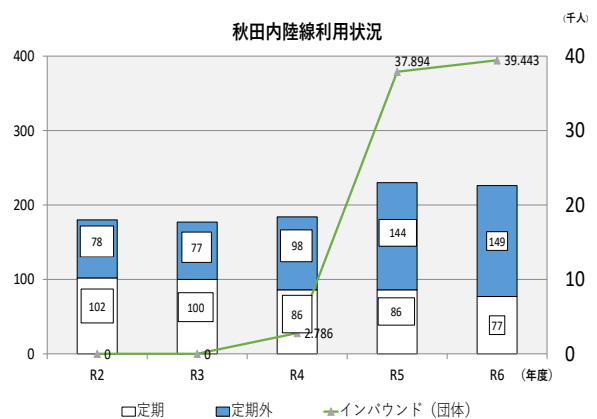
政策コンテスト枠の延長として、令和11年3月24日までの3往復運航が決定している。

令和6年度の利用者数は、194,655人となっており、前年度比で12.5%の増加となった。新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度を上回っている。

鉄道は、JR奥羽本線、花輪線のほか、鷹巣と角館を結ぶ秋田内陸線が第三セクターで運行されている。秋田内陸線の令和6年度の輸送人員は、226,690人であり、前年度との比較では、3,889人の減少となっている。インバウンド団体の利用は、新型コロナウイルス感染症の規制緩和以降、増加傾向となっている。



(出典 大館能代空港の利用状況)

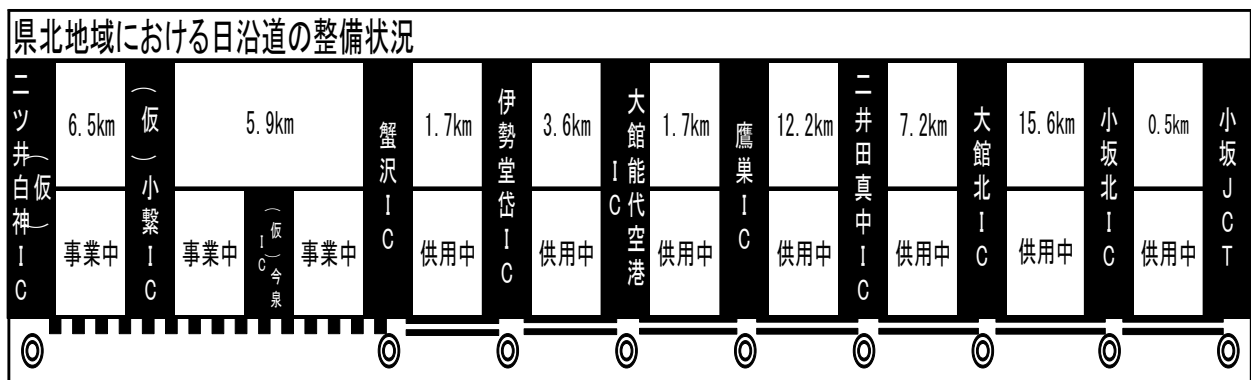


(1) 道路

管内の高速道路は、平成28年10月に日本海沿岸東北自動車道・二井田真中 I C～鷹巣 I C 間が開通したことにより、平成25年の大館市に続き、北秋田市が東北縦貫自動車道に接続された。

平成30年3月に、鷹巣 I C～大館能代空港 I C 間1.7kmが開通したことで、大館能代空港が東北縦貫自動車道に直結している。また、令和2年12月に大館能代空港 I C～蟹沢 I C 間5.3kmが開通し、国道7号へのアクセスがより向上した。

現在、二ツ井今泉道路 (L=5.9km) 及び二ツ井白神 I C～小繫 I C 間 (L=6.5km) については、国施行による事業が進められている。



一般国道では、国直轄管理の国道7号が管内北部を東西から青森県境に北上し、県管理の国道103号が大館市から東西に鹿角地域と、国道105号が中央部を南北に大曲仙北地域と、国道285号が秋田市周辺地域と結ばれており、地域間交流・連携を支えるネットワークを形成している。また、主要地方道では鷹巣川井堂川線など9路線、一般県道18路線で地域内交通のネットワークを形成している。

このうち、国道105号の郡境部の大覚野峠区間5.7kmについては、令和3年3月より国直轄権限代行「大覚野峠防災」事業が進められている。

県管理道路の総延長は30路線、435.83kmでその改良率は77.5%、舗装率は95.2%となっており、県全体の改良率79.6%、舗装率97.3%に比べてどちらも北秋田管内が低くなっている。これらの路線は地域の発展や活性化に不可欠な路線であり、厳しい財政状況が続く中でコスト削減に努めながら整備促進を図っている。

(2) 河川

管内の河川は、国直轄管理の米代川（一部県管理8.3km）のほか、仙北市田沢湖町との境界の榎森に源を発し、北秋田市山間部を流れ能代市二ツ井町下田平地区で米代川に合流する阿仁川（管理区間延長60.7km）や阿仁川に流入する小又川、小阿仁川など41河川、管理延長457.924kmとなっている。このうち、築堤済区間が175.182km、無堤区間が141.236km、築堤不要区間が141.506kmで整備率は55.4%となっている。